

第1回：「サバ神社」とは何か

（2023年8月2日放送）

Q1 そもそも「サバ神社」とは

---

「サバ神社」とは、北は横浜市瀬谷区から南は藤沢市西俣野にかけての東西3km、南北10kmの四方の中に分布し、境川やその支流である和泉川及び引地川の高台に位置する神社の総称です。境川は高尾山の麓、町田市相原町（あいはらまち）大戸を水源とし、片瀬海岸に注ぐ全長約70kmの二級河川です。全流域の90%以上は自治体の境界であり、その約半分が旧武蔵国と旧相模国との境で、その名の通りの役割を果たしてしています。和泉川は横浜市瀬谷区と旭区の境にある瀬谷市民の森付近を源流として、戸塚区で境川に合流する全長9kmの二級河川です。引地川は大和市上草柳（かみそうやぎ）に源を発し、藤沢市を南下して相模湾に注ぐ、全長約20kmの二級河川です。一般的にカタカナで「サバ」と表記され、共通の音を有する12社がこの流域に現存しています。

Q2 「サバ神社」の「サバ」の語源

---

「サバ」の語源は田の神である「サンパイ」や、「サバイ」などの古語から転訛したとの考えもありますが、全体を通した不思議・謎を説明できるかが課題として残ります。平成初期の調査結果によると全国的に分布する八幡（はちまん）神社系統は約7千8百社、神明社などの伊勢信仰は4千5百社、天神信仰は3千9百社とある中で、サバ神社は極めて少数で、しかも地域限定の神社と言えます。藤沢市周辺にお住いのリスナーの方々には「サバ神社」はなじみの多い存在かも知れませんが、実は非常に珍しい由緒や社号、即ち神社の称号を有する謎が多い神社なのです。

Q3 「サバ神社」には、いくつか種類がある

---

先ほど、「サバ神社」は総称と説明しましたが、実は現存する12社の社号には、次の5種類があります。まずは、左の馬と書く「左馬神社」、これを仮に「馬サバ」と称することにします。魚の鯖の字を書く「鯖神社」、これを仮に「魚サバ」と称することにします。人偏に左の佐に波と書く「佐波神社」、これを仮に「波サバ」と称することにします。同じく人偏に左の佐にお婆さんの婆を書く「佐婆神社」、これを仮に「婆サバ」と称することにします。「婆サバ」は人偏が付かない表記もありますが、ここでは現在の扁額に合わせ人偏を付すことにします。同じ「サバ」の音ですので、ラジオ放送では識別のため、こう表現します。現存する12社の構成は、「馬サバ」が6社、「魚サバ」が2社、「波サバ」が1社、「婆サバ」が1社です。これでは合計10社にしかありません。実は残る2社は所在する地名に由来します。横浜市泉区上飯田にある「飯田神社」、藤沢市高倉にある「七ツ木神社」です。いずれも江戸時代には「鯖明神」と称していましたが、「七ツ木神社」は明治に入ってから地名を冠しており、現存12社とな

ります。

#### Q 4 「サバ神社」の所在

---

各神社を所在地別にみると、最も多いのは横浜市泉区に所在する5社、続いて我が藤沢市の4社、3番目は大和市の2社、残りは横浜市瀬谷区の1社です。江戸時代には東俣野村、現在の横浜市戸塚区東俣野に廃絶となった「左馬明神社」があったようです。この廃絶1社を含めて、「サバ神社」13社を扱う場合もあります。江戸時代後期の天保12(1841)年に刊行され、江戸時代の代表的な地誌となった『新編相模国風土記稿』によると、13社のうち2社の記載はなく、郡別には高座郡が6社、鎌倉郡が5社となります。『新編相模国風土記稿』は以後、『相風記』と略させていただきます。さらに、近年、東俣野と現俣野町である上俣野の境近くにある「石祠大明神」が実は「サバ神社」への発展前の形態であり、14社目に数えるべきとの説が地元の郷土史家川戸清氏から出されています。この「石祠大明神」の位置は元来上俣野であり、境川の氾濫による流路変更で現在は東俣野に組み入れられているとの見解が示されています。江戸時代に俣野郷は高座郡西俣野村、鎌倉郡東俣野村、鎌倉郡上俣野村から成り、神社の前身と見られる「石祠大明神」を含め、各村単位に「サバ神社」が存在したと見られています。

ところで、厳密にいうと、人偏に左の佐に波と書く「佐波神社」は山口県防府市にも2社あります。読みも「サバ神社」ですが、後に説明する由緒が全く異なり、明らかに違う系統の神社といえます。また、静岡県西伊豆町にも同じ字の「佐波神社」が存在しますが、こちらは「さわ神社」と読み、由緒も明らかに違う系統の神社といえます。しかし、「馬サバ」の「左馬神社」と「魚サバ」の「鯖神社」は全国的にも見当たりません。

#### Q 5 「サバ神社」の祭神

---

次に「サバ神社」の祭神について触れます。13社のうち、境川と引地川の沿岸に位置する「サバ神社」の祭神は源義朝、すなわち源頼朝や義経の父親です。一方、和泉川の流域沿いに有る3社は義朝の六代先祖となる源満仲です。いずれも清和源氏、河内源氏の系統です。「源義朝」は源氏の始祖でも中興の祖でもありません。その義朝を祭神とする神社は「サバ神社」を除き、全国的にありません。源満仲については拠点であった兵庫県川西市にある「多田神社」1社のみ存在しますが、いずれにしろ、この二人が祭神であるのは謎の1つと言えます。

本日は「サバ神社」の概要を説明しました。次回以降は廃絶した1社を含む13社個別の歴史や由緒を説明します。